



光の子だより

令和5年5月1日
千葉市立作新小学校
校長 遊間 京子

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたく たくましい」子どもの育成

☆期待する子ども像☆

自ら学び、よく考える「かしこい」子ども
思いやりのある心豊かな「あたたかい」子ども
丈夫な心と体を持つ「たくましい」子ども

学校では、新たな学年で頑張ろうとする子どもたちの前向きな姿が見られています。新しい環境での生活にも徐々に慣れて緊張もほぐれてきています。この期間の休みをうまく活用して、リフレッシュ&リスタートをして運動会に向けた活動へと移りたいと思います。

さて、昨年度のサッカーワールドカップの「ブラボー」やWBC(野球)の「最高」という感動が、今でも蘇ってくるかの如く、子どもたちには、ワクワクやドキドキをより多く味わってもらいたいです。作新小の先生方は、やる気と輝きに満ちています。力のある素晴らしい先生方がたくさんいます。どのようにすごいのかというと、昨年度はこれまでの実践が評価され、千葉市研究奨励賞を受賞した先生が2名もいたことや、今年度も市教研という教職員の勉強会で、千葉市の代表として声がかかる先生方が複数名います。子どもたちは巡り合った先生方からたくさんの学びを得てほしいと思います。

「学校説明会」

保護者に学年や学校の経営方針が伝えられました。今の時代をVUCA時代:変動性、不確実性、複雑性、曖昧性と表現されていて、想定外の出来事がいつ起こってもおかしくない中、今まで通りの延長戦ではない時代を意識していくことが大切となります。

今後、子どもたちに必要とされる6つの力については、①ダイバーシティ:多様性の理解②セルフエスティーム:自己肯定感③レジリエンス:しなやかな強さや適応力④コラボレーション:協働⑤アップデート:知識の習得⑥ファシリテーション:うまく事が運ぶようなアイデア創造、特に変化に対応して生き抜く子どもに必要だと考えています。将来、社会で活躍する子どもたちの可能性〈よさや強み〉を最大限に引き出し、子ども自身がさくしんブランド:誇りをもてるようにしたいものです。

ところで、私は人が生きる上で自己肯定感が重要だと考えています。成功体験を重ね承認され感謝される実感や、他のために役

立っている実感をもたせることが大切です。さらに、自己決定を繰り返すことで自己肯定感が高まります。家庭ではつい口を出してしまい、子どもが自己決定をする機会を奪ってしまうこともあるのですが、自己決定できる子=自律できる子です。自己決定できる機会を意図的につくることで、「自分で考え、自分で決める」ことが大事になります。声かけは、「どうするの?」「どうしたいの?」です。

引き続き今後も学校・家庭・地域が[心ひとつ]に歩んでいきたいと思っています。

「避難訓練と安全教室」

私たちの生活には危険がたくさん潜んでいます。突発的な災害を想定して、常に最悪を想定して緊急時に備えていきます。

『おかしも』

おさない・かけない・しゃべらない・もどらない

『いかのおすし』

いかない—知らない人にはついて行かない。

のらない—知らない車に乗らない。

おおごえをだす—防犯ブザーと「助けて」と叫ぶ。

すぐにげる—その場からすぐに走って逃げる。

しらせる—口止めされても、大人にはきちんと知らせる。

子どもたちは大人が不在の状況で、自分の身に迫った危機をどう回避するか?状況を判断してうまく行動に移せるか、その力が試されます。作新小の周辺でも不審者情報が入り、不安は尽きませんが、安全教室での学びが生きて働く知識となり行動できるように祈ります。各ご家庭でも話し合ってください。



4年交通安全教室



1年アルソック安心教室